

# 銀の馬車道ストーリー

## しろがねの輝きを運んだ、まっすぐに続く道

今、ゆるやかに時が流れる場所。  
そこはかつて、この国で初めての  
ハイウェイが通ったルートです。



昭和初期に活躍した馬力



「開墾の終わった西光寺野」 出展：「西光寺野普通水利組合耕地整理組合事業」1915(大正4)年



馬車で賑わう飾磨



生野鉱山本部全景



生野鉱山本部前の馬車道

日本列島を南北に縦断する兵庫県の、ほぼ中間地点に位置する朝来市生野町。ここには、9世紀はじめから20世紀後半にかけ、主に銀の採掘で知られた生野鉱山が存在しました。この鉱山で産出された銀を、流通拠点である飾磨津(現・姫路港)まですみやかに輸送するため、明治9(1876)年、一大国家プロジェクトとして馬車専用道路が造られます。当時としては最新の舗装技術を導入して建設された、「日本初の高速度産業道路」ともいわれる全長約49kmの道路。これが、生野鉱山寮馬車道、通称「銀の馬車道」です。

その後、明治28(1895)年に姫路-生野間を結ぶ播但鉄道(現・JR播但線)が開通すると、馬車道はその役割を終え、大部分が国道や県道へと姿を変えてゆきます。今ではほんの一部にしか馬車道の面影は残されていませんが、沿線を散策すると、当時の街の様子や熱気を感じさせてくれる風景にいくつも出会うことができます。

この銀の馬車道をたどれば、兵庫県を縦断して日本海側の城崎温泉へとつながります。日本の歴史や文化、そして美しい自然を体全体で感じられるルートの魅力を、ぜひ味わってみてください。



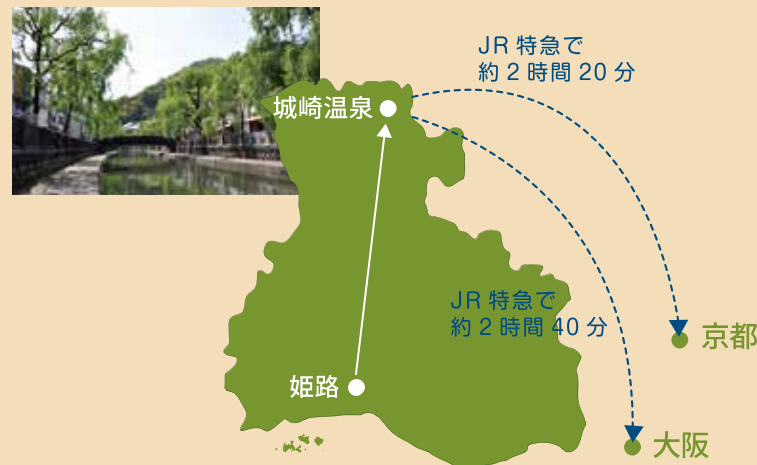
神河町吉富にある畑川原の池付近には、昔のままの馬車道が現存する。



鉱山の入口でトロッコに乗る鉱夫たち

銀の馬車道から城崎温泉へ抜け、ゆっくり一泊。  
次の滞在先への  
アクセスも便利です！

姫路からJR播但線にゆられ、一路北へ。途中下車した各駅には、それぞれ日帰りで楽しめるコースが満載です。そんな銀の馬車道の旅の終着点は、平安時代から1300年以上の歴史を誇る城崎温泉。「町全体がひとつの温泉旅館」とも称されるこの地のお湯で、旅の疲れをリフレッシュしてください。次の目的地となる大阪・京都等の関西圏や、岡山へのアクセスも非常に便利です。



### Mapについて

○銀の馬車道ロード  
明治初期に整備された「銀の馬車道」は、現在その大部分が国道や県道に姿を変えているため、安全に跡をたどることができません。そこで、安心してサイクリングやウォーキングを楽しめるコースとして、生野銀山から姫路港まで約53kmの「銀の馬車道ロード」を設定しました。

○ウォーキングルート  
JR播但線の諸駅を拠点とした、周辺散策ルートです。

※このマップでは、銀の馬車道ロードやウォーキングルート、沿線施設などは凡例で示していますので、凡例一覧をよくご参照ください。また、公共施設の「主なトイレ」は、土日祝日は休館の場合がありますのでご注意ください。

※銀の馬車道、および銀の馬車道ロードの沿線には、さまざまな看板や標識が立てられています。近くを通る際には、ご自身の位置確認のためにご活用ください。

(例) 何種類があります。



【馬車道看板】  
(何種類もあります。)

【馬車道標識】

【ロード看板】

【ロード標識】

